

令和7年1月17日		
所 属	(一社)あまがさき観光局	商業観光課
所属長	松長 昌男	山下 秀樹
電 話	06-6409-4946	06-6430-9750

没後 20 年特別展「中島らも ぼくがうまれたまち」 ご好評につき会期を 2 月 2 日まで延長します

尼崎市と（一社）あまがさき観光局は、令和 6 年 12 月 7 日（土）から開催している没後 20 年特別展「中島らも ぼくがうまれたまち」の会期を 2 週間延長し、令和 7 年 2 月 2 日（日）までとします。

劇作家、ミュージシャン、放送作家、ラジオパーソナリティ、小説家など、多方面に活躍した中島らもは、1952 年、兵庫県尼崎市に生まれました。本展では作者の没後 20 年にあたり、自筆原稿や口述筆記原稿に加え、彼が暮らした当時の尼崎の街並みの写真パネルといったさまざまな資料から、彼の多彩な活動の一端を振り返り、「文筆家」としてのらもを地元・尼崎とともに紹介します。

参考 令和 6 年 12 月 7 日（土）～令和 7 年 1 月 16 日（木）までの来場者数…2,611 人

開催概要

（1） 会期

令和 6 年 12 月 7 日（土）～令和 7 年 2 月 2 日（日）

※ご好評につき、1 月 19 日（日）までのところを 2 月 2 日（日）までに会期延長しました

午前 10 時～午後 5 時（土・日・祝日は午後 6 時まで）

休日 月曜日（祝日の場合は翌平日）

年末年始（令和 6 年 12 月 30 日（月）～令和 7 年 1 月 3 日（金））

（2） 料金 入場無料

（3） 会場 開明 rooms（尼崎市開明町 2-1-1 尼崎市開明庁舎 1 階）

（4） 主催 一般社団法人あまがさき観光局

（5） 共催 尼崎市

（6） 協力 中島らも事務所

（7） 制作 合同会社 eitoeiko

（8） 出品作品 自筆原稿と口述筆記原稿を展示

『僕に踏まれた町と僕が踏まれた町』

1989 年集英社刊。1987 年 3 月 6 日から 1988 年 12 月 30 日にかけて朝日新聞社播但サービス紙「A+1」に連載されたテキストを再構成した本作品では、尼崎市の自宅から通っていた中高から大学生までのエピソードを中心に語られています。

『西方冗土～カンサイ帝国の栄光と衰退～』

1991 年飛鳥新社刊。1994 年集英社文庫化。様々な媒体に掲載したエッセイをまとめた本作品の、書き下ろしと思われる冒頭部分の原稿を展示。変更前の見出しタイトルに線が引かれ、「はじめに」と修正されています。笑いのあるエピソードを中心にしながら、冒頭では関西論に対する決意が書かれています。

『ロバに耳打ち』

2003 年双葉社刊。2005 年双葉社文庫化。2013 年講談社文庫化。2001 年 3 月から 2002 年 6 月にかけて株式会社賃貸住宅ニュース社発行の「CHINTAI」近畿版に連載されたテキストを再構成した本作品では、尼崎での幼少時代の思い出から近況までを軽妙な文体で語っています。

その他、『ガダラの豚』（1993 年）、絶筆となった『ロカ』（2005 年）など代表作品から原稿を蔵出し公開する予定です。

【展示内容についてのお問合せ先】

エイトエイコ
eitoeiko (03-6873-3830 ei@eitoeiko.com)

（9） 関連事業

尼崎市立中央図書館（尼崎市北城内 27）では、令和 6 年 12 月 13 日から令和 7 年 1 月 19 日の期間、関連図書コーナーを設置します。

※開館スケジュールは図書館に準じます

【参考画像】



左 自宅で書籍に目を通す中島らも カラー写真

中 『僕に踏まれた町と僕が踏まれた町』より「変わり喫茶」 自筆原稿 1987 年

右 Noodle man 自筆イラスト 1988 年頃？

以 上

中島らも ぼくが生まれたまち

(一社)あまがさき観光局主催 尼崎市共催
没後20年特別展

令和6年

12月7日(土) ~

令和7年

1月19日(日)

好評につき、会期延長

~2月2日(日)

尼崎開明rooms
(尼崎市開明庁舎内)

会期 | 令和6年12月7日(土)~令和7年1月19日(日)
午前10時~午後5時(土・日・祝日は午後6時まで)
休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始 | 令和6年12月30日(月)~令和7年1月3日(金)

料金 | 入場無料

会場 | 開明rooms(尼崎市開明町2-1-1 尼崎市開明庁舎1階)

主催 | 一般社団法人あまがさき観光局

共催 | 尼崎市

協力 | 中島らも事務所

制作 | 合同会社eitoeiko

出展原稿

僕に踏まれた町と僕が踏まれた町

今夜、すべてのバーで

西方冗士

ガタラの豚

ロバに耳打ち

ロカ



イラスト | 中島らも事務所
写真提供 | あまがさきアーカイブズ
※モノクロ写真に着色

尼崎に生まれ、独創的な発想とユーモアで幅広く活躍した作家、中島らも。

劇作家、ミュージシャン、放送作家、ラジオパーソナリティ、小説家など、多方面に才能を発揮した中島らもは1952年兵庫県尼崎市に生まれました。没後20年特別展「中島らも ぼくがうまれたまち」では、自筆原稿や口述筆記原稿に加え、初掲載時の雑誌や単行本として刊行された書籍、当時の尼崎の写真といったさまざまな資料から多彩な活動の一端を振り返り、「文筆家」としての「らも」を地元・尼崎とともに紹介します。

中島らもってどんな人？

らもが生まれた頃の尼崎

中島らも（本名：中島^{ゆうし}裕之）は1952年、歯科医の父・禎次郎と母・敏子の次男として生まれました。尼崎では尼ロックの第一関門が1954



年に完成し、町の大きな発展が始まろうとしています。

1952年頃
阪急百貨店にて



変わり喫茶 自筆原稿 1987年
読みない筆致で書かれたエッセイでは、地元尼崎の喫茶店について触れています。

お茶の間を沸かす人気者に

大阪、東京で暮らし、自宅にはあまり帰らなくなっていたらもですが、エッセイではたびたび尼崎で過ごした頃を振り返っています。

町並みが緑を取り戻していく中、2004年に死去。



1980年代末
自宅にて

灘中、灘高から大阪芸術大学へ

超進学校に入学した中島らも。ところが高校の途中から落ちこぼれてしまいます。高校3年生のときに三宮のジャズ喫茶で長谷部美代子と出会い、浪人時代を経て大阪芸大に入学、らもは学生結婚します。尼崎は成長とともに公害問題が深刻化していました。



1976年頃
結婚後、立花のマンションにて

「中島らも」の誕生

らもは1977年末に宝塚市に家を購入するまで、尼崎に住みました。印刷会社を辞めて広告代理店に転職し、1982年に発表した『啓蒙かまぼこ新聞』が反響をよび、ラジオからテレビへと活躍の場を広げていきます。



1982年頃 勤務先にて

トークイベント 中島さなえ × 癸生川栄

1/5 (日) 13:00~15:00 展示会場内にて 入場無料

中島らもの長女でミュージシャン、小説家の中島さなえさんと本展を企画したeitoeikoのアートディレクター癸生川栄が展示作品について語ります。

尼崎開明ルームスについて

開明rooms（かいめいルームス）は、開明の名前のごとく、尼崎で開かれた明るい文化観光の賑わいを作り出すため、尼子騒兵衛漫画ギャラリーとともに、展覧会やイベントスペースとして活用していきます。

会場案内



〒660-0862 兵庫県尼崎市開明町 2-1-1 尼崎市開明庁舎 1 階
TEL 06-6409-4946 FAX 06-6417-5146 <https://kansai-tourism-amagasaki.jp/>